

2011年(平成23)3月

カルメル
霊性センターニュース



2011年3月

263号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

—— バルバロ訳 ——



第一卷

第二十章 孤独と沈黙とを愛する

2 沈黙する時を知る

ある知恵者が言った、「私は人とつきあうごとに、人間として損害を受けて帰った」(セネカ、書簡、7・3)。私たちもしばしば、長いおしゃべりをした後で、それを痛感する。まったく話さないことは、度を過ぎさずに話すことよりも、容易である。家でひそやかに生きることは、外で自分の安全を保つより容易である。

霊的なことにおいて進歩したいと望む人は、イエスの模範にならって、群衆から離れなければならない。喜んで隠れた生活を送ろうとする人なら、外に出ても安全である。喜んで沈黙を守ろうとする人なら、話をしても安全である。喜んで服従する人なら、人の上に立つことは誰よりも安全である。従うことをよくなった人ならば、誰よりも安全に人に命令が下せる。自分の心のなかで良心の声を聞く人だけが、安心して喜ぶことができる(二 コリント1・12参照)。

心の泉



マリアは

み言葉を身ごもり

彼女の すべては

みことばへとむかいます



フラ・アンジェリコのマリアのお告げ

どこからともなく漂う梅の香りは、寒さのうちに春を告げ知らせてくれます。三月に入るとすぐに灰の水曜日、四旬節が始まります。そしてマリアのお告げの祝日・・・おおくの芸術家はさまざまなお告げの場面を描いてきました。

お告げのときのマリアの驚き。しかし、マリアはこのメッセージがどこからのものか知っていました。マリアは神のみ言葉を信じて受け入れ、そして自分自身をささげましたが、そのように促したのは聖霊でした。

外からと同じぐらい強いうちからの不安、自分のうちに芽生え去来する疑いからの不安のうちにマリアは浸っています。しかし信仰のうちにすべてを神にまかせ、委ねます。*

マリアは最初からすべてを理解したわけではありません。けれども生涯にわたって聖霊の動きと一つでした。マリアはイエスを見つめます。彼が神の子、あがない主であることを知っています。そして彼に従うのです。すべてはそこにあります。受難の「時」が来るとイエスはエルサレムに上られます。母マリアも彼に従わなければなりません。母のまなざしは子供、青年、聖人となったイエスのまなざしに見入り、信仰と愛によって苦しむ人の深みに入ります。

彼女は息子をささげ、完全に与えます・・・何故マリアはとどまるのでしょうか。彼女は希望し続けるからです。*

母マリアとともによい四旬節を過ごすことができますように。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』聖母の騎士社

エデンの園 (5)

くわりの
九里 彰

「それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなる」という蛇の言葉は、人間の内奥にささやきかけてくる神に逆らう力、サタン（ヘブライ語で「敵」の意味）の声であろう。それはだれの心にも巣食う、人に差をつけ、自分を優れた者、偉い者とし、人々から賞賛、尊敬を得ようとする傲慢な心と言ってもよい。

女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。(創3：6-7)

木の実を食べると男と女の「目が開く」。これは、人間が神の意志に逆らい、自分の意志を遂行することによって、神から独立した瞬間を表していると思われる。それゆえ、人間が人間として誕生した決定的瞬間とも言える。以来、人間は、神の意志ではなく、自分の意志を絶えず行なおうとしている。

では、その時開いた目とは、どのような目なのであろうか。それは、人間を人間たらしめている知性の目であり、これによって人は、善悪を知るようになるのである。なぜなら、善悪を知るということは、自分や相手の行動を客観的に眺め、だれにでも妥当する基準（道徳）に照らし正しいか正しくないかを判断することだからである。その意味で、自分や他者を対象的に、すなわち自分から距離を置いて眺めることが前提されている。こうして、自己意識が生じ、神と自己、自己と自己、自己と他者の間に分裂が生みだされる。

いずれにせよ、男と女は自分たちが「裸」であることを知るようになる。幼児は自分が裸であろうと服を着ていようとさほど頓着しないが、自己意識が芽生えると、大人のようにふるまおうとし、服を着るようになる。同様に、男と女は、いちじくの葉をつづり合わせ、腰覆いを造る。それは、人間が動物から人間となったしるしであり、人類最初の文化的営みなのである。

それゆえ、このような知性の目が開かなかつたならば、人間は他の動物と同様、いまだにエデンの園にとどまっていたことだろう。文化も文明も発展せず、子供のように、裸のまま大地を飛び回っていたに違いない。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (141)



その日を救うために書くこと

書くことは、真に靈的な修業となり得ます。書くことは、私たちが神経を集中し、心のより深い動きに触れ、精神をはっきりとさせ、混乱した感情を整え、自己の体験を内省し、生きているすべての事柄に対し趣のある表現を与え、記憶の中に意味深い出来事を蓄えていくことを助けてくれるからです。書くことは、私たちが書いたものを読むであろう他の人々にとっても、良いものとなり得るのです。

困難な、苦渋に満ちた、失望の内に終わる一日が、それについて書くことによって、きわめてしばしば「救われる」のです。書くことによって、私たちは、生きてきたことを事実として主張し、それによってそのことをより十全に私たちの旅路へと統合していくことができるのです。その時、書くことは、私たちにとって命を救うものとなり、時には、他の人々にとってもそのようなものとなり得るのです。

(0427)

書くことは、深い井戸を開くこと

書くことは、単に考えを書きとめることではありません。しばしば私たちは、「何を書いていいのかわからない。書きとめるに値する考えなど持っていない」と言います。けれども、ほとんど良い書きものは、書くことそれ自体の過程から浮かび上がってくるのです。私たちが単純に一枚の紙の前に坐り、私たちの頭や心にあることを言葉で表そうとし始めると、新しい考えが浮かびあがるのです。その考えは私たちを驚かし、以前からあったにも関わらず、私たちがかつてほとんど知らなかった内的な場所へと私たちを導くのです。

書くことのもっともすばらしい側面の一つは、それが、私たちの中に、隠された宝の深い井戸を開くことです。その宝は、私たちだけではなく他の人々の目にも美しいものとして映るのです。

(0428)

(九里 彰訳)

「だから、わたしの言葉を聞いて実行する者は皆、
岩の上に家を建てた賢い人にたとえられる」（マタイ7：21～27）

家のたとえ話

神の言葉を聞くこととそれに従って行動することが両方共どれほど大切であるかを強調するために、イエスは大変簡単な比喩を利用しています：神の言葉を注意深く聞いてそれに従って行動する人は、どんな自然災害にも耐えられようように岩の土台に家を建てる人のように真に賢い人です。しかし、神の言葉を喜んで聞いたり、読んだり、伝えたりするが、その生活はそれと一致していない人たちがいます。イエスの意見では、これらの人たちは土台なしに家を建てる人のように愚かな人たちです、この家はつぶれてしまいます。

イエスがこの比喩を行うとき、イエスは私たち自身も含めてあらゆる時代のイエスの信奉者を心に留めました。あらゆるキリスト教の社会には毎日曜日にきちんと教会に行く人たちがいます。聖書や賛美歌の本を持って、正装して教会に行く姿を見ることが出来ます。この人たちは全ての賛美歌を覚えていて、機会があれば上手にお説教をすることもできます。しかし彼らがいったん教会を出たのについていくと、彼らの生活はキリスト教徒でない人たちと変わりありません。このような人たちは死が来ると衝撃を受けます。

不幸なことに私たちは皆過去においてはこのように愚かに行動していました。私たちはかならず今度限り賢くなり始めなければなりません。注意して心に留めないならば本日の福音の細部の意味を取り損ないます。イエスの心の中では、

家 は私たちの存在、私たちの生活です。

岩 はキリストご自身です。

砂 は私たち自身、不安定さの象徴です。

嵐 は様々な種類の試練や誘惑を表します。

キリストの上に自分の生活を建てる人、イエスの生き方に賛同する人だけが、疑いや闇、悲しみ、不安、誘惑のときに辛抱し、救われるでしょう。自己や気まぐれや情熱の上に建てる人は結局失敗してしまいます。

最後の質問：私たちの救いは神によるのでしょうか、それとも自分によるのでしょうか？ 言いかえてみると神の慈しみによって救われるのでしょうか、それとも私たちが神の意志を実行することへの報酬として救われるのでしょうか？ 私たちの救いは、神の働きと私たち自身の働きの両方です、確かに神の働きのほうが多いですが、私たちの働きもあります。賢人で聖人であるアウグスチノ司教はこのような言葉を書き残しています：「神はあなたなしにあなたを創造されました」、すなわち、あなたはあなた自身の創造に何も関係していませんでした、「しかし、神はあなたなしにあなたを救うことはありません」、すなわち、あなたは自分が救われるための働きには参加しなければなりません。

「イエス・キリストは今も永遠に」

(Sr. Paulina)

四旬節第一主日 マタイ 4, 1-11

「そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた」(マタイ 4, 11)。

ここで注目したい言葉は、イエスが三つ試みを切り抜けたとき、「悪魔は離れ去った」です。つまり、誘惑する者は「イエスを手放して、自由にした」とも読めます。実は、日本語訳で異なったように訳出されてはいますが、まったく同一の表現がもう一回「マタイによる福音」のイエスの洗礼の場面に登場します。洗礼者ヨハネは、イエスが洗礼を受けに来られたのを見て、それを思いとどませようとしめます。しかし、イエスは、「今は、とめないでほしい。正しいことをすべて行うのは、われわれにふさわしいことです」とお答えになり、これを受けて、「ヨハネは、イエスの言われるとおりにした」(マタイ 3, 15)とあります。この言葉は、原文では、「悪魔は離れ去った」と、主語が異なるだけで、まったく同じです。ここから見えてくることの一つは、大変大胆なことに聞こえますが、洗礼者ヨハネも、誘惑者と同じ陣営、つまり、人間の眼には見通せない御父の深遠な御旨の完璧な実行からイエスを離れさせようとする勢力に知らずに加担するものとして描かれていることです。勿論、洗礼者は、まったくの善意から、イエスのすばらしさを知っているからこそとった行動なのですが。ここに、善意の人間の限界が見えます。

荒れ野での洗礼者ヨハネの活動、イエスの洗礼、そして、荒れ野での誘惑。この三場面は、緊密に結ばれ、その中心はイエスの洗礼であることは明らかですが、それぞれの場面が他のものを解読する鍵となっています。わたしたちにとって洗礼は、「キリストと共に葬られ、その死にあずかるもの」(ローマ 6, 4)となるためでしたように、イエスにとってもヨルダン川での洗礼は、十字架の死の先取りでした。そして、イエスの誘惑の頂点は、まさに、十字架に付けられているとき、祭司長、律法学者、長老たちと共に全会衆が、「イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう」(マタイ 27, 42)と、イエスをののしった、この時です。それは、全民衆、イエスがご自分の命をかけて救おうとされる民衆自身からのイエスのもたらず救いを拒絶する声であったのです。しかし、そのわたしたちのためにイエスは死なれた。わたしたちも、毎日の生活で、イエスを、その十字架の死を拒絶する者となっていることはないでしょうか。イエスの十字架の死からわたしたちを引き離すもの、それが誘惑です。ルカ渡辺幹夫

四 旬 節 第 2 主 日 (A)

“これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに開け。”(マタイ17:1-9)

四旬節第2主日は主の変容の神秘に捧げられています。教会は復活祭への歩みをちょっと止めて、霊的な恵みを得るために主の変容という出来事を思い巡らすよう勧めます。それは主に忠実であるよう私たちを励ますためです。今日の第1朗読でのアブラムの召命、福音においてのイエスの召命、第2朗読での私たちの召命：アブラムの忠実さ、そしてとりわけ神によって委ねられた仕事に対するイエスの忠実さは、私たちに自分自身の召命に忠実であるための勇気を与えるはずで

イエスの召命：アブラムのように、イエスも御父に従い、天の国を離れ、私たちを救うために人となりこの世に来られました。イエスのご生涯中、二度の特別の時があります。それはヨルダン川での主の洗礼と山上における主の変容です。そのいずれにおいても父なる神は“これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者”(マタイ3-17)、“これは私の愛する子、これに開け”(マタイ17-5)との声を響かせ、御父によって委ねられた任務を果たそうとする御子を含め、ご自分の御子に対する愛を確認させます。

父なる神は、御子が山上で光り輝く姿となってその栄光を表すことを許されました。それは御父がイエスに委ねた仕事を正式に任命し、イエスを強め、これを私たちに知らせるためでした。イエスと話しているモーセとエリアの存在は、この世でのイエスの任務を明確なものにしています。イエスは、救い出されたイスラエルの民族を(全ての人々を)道々必要な霊的糧と飲み物を与えながら、約束の地(天の国)まで導く新しいモーセと言うべきです。またイエスはエリアがその生涯を通して行った働き、人々を偶像崇拜から引き離し、真の神に立ち戻らせることを続けるために呼び出されました。

主の変容は御父の愛から出たことです。ご自分の任務を遂行しようとするイエスを勇気づけるため、また私たちを勇気づけるためでした。ペトロがこの時見たことは生涯を通してペトロを勇気づけ、その後も、彼に従うキリスト者たちに忍耐する勇気を得させたいと、この出来ごとを思い返していました。(2ペトロ1:10,13,17,18)

わたしたちが主に呼ばれていることは、なんと貴く大事なことでしょう！キリストを信仰することに呼ばれた私たちは何と感謝すべきでしょう！どんな艱難辛苦であろうとそれに耐え辛抱する必要があるとき、それは少しずつもう一人のキリストに変容されていきます。このようにしてのみ、わたしたちは天の国で、またこの聖なる山で、永遠に主と共に留まる資格が与えられるのではないのでしょうか！“今もいつも永遠に、イエスキリストは賛美されますように！”

(Sr. Paulina)

四旬節第三主日 ヨハネ 4, 5-42

「ヨハネによる福音」の特徴の一つは、イエスの史実上の出来事の深層の意味、表面的に出来事の外観をなぞるだけでは見えては来ない意味が、神の救いの歴史の中の他の出来事と照らし合わされることで、浮かび上がってくるように書かれていることです。この観点からも、今日の福音は良い例です。たとえば、この福音の鍵言葉の一つは「水」ですが、この言葉を、旧約における神の救いの歴史と切り離して、物質次元での「水」に留まるなら、イエスとサマリアの婦人の出会いは、その真実な姿を隠れたものに留めてしまい、誤解の中に閉じ込めてしまいます。実に、これは、冒頭で、イエスが「水を飲ませてください」と声をかけたとき、サマリアの婦人に起こったことです。彼女は、イエスの言われる言葉すべてを物質的次元で把握しようとし、誤解の中に留まっています。また、イエスの「『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう」との言葉にも短絡的に反応して、「主よ、あなたはくむものをお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか」と反論します。また、イエスが、「わたしが与える水を飲むものは決して渇かない」と言われると、これには、「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください」と、イエスが「水」で意味されようとしているものを、自分の理解可能な「水」に還元しています。実は、イエスは、「水」で、神の救い、愛の救いの啓示を指しておられるのですが。

ここで、イエスは、「行って、あなたの夫をここに呼んできなさい」と、急に話題を転換したかのように見えます。この婦人の生活の実態、五人の夫をもっていた、しかし、今共に暮らしているのは夫ではない、これも事実なのでしょうが、より一層意味深いことは、婦人の身の上ではなく、サマリアの地域が置かれている状況、信仰の観点から見た実情です。サマリアは、アッシリアが移住させた五つの民族のために、宗教的には不純なものと思われていました（参照 2 列王 17, 24-41）。こうして、この婦人の状況は、明確な意味を持つこととなります。真実な神からの啓示の光の中に、光があったとしても純粹には把握できないで、神が望まれるままの神との関係を生きてはいない状況にある人々が、全人類と言ってもよいのですが、このサマリアの女性によって表象されているわけです。真実な崇敬、神が望まれる礼拝は、イエスにおける啓示の光の中で示されてくる礼拝、崇敬です。ルカ渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (45)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

メディーナ・デル・カンポからヴァヤドリド (2)

(ヨハネ修士が創立者の修母のお伴をしているのを見て、ある意地の悪い者が、彼をからかいました。)

ヨハネ修士はこれを聞くと、たちまち真っ赤になりました。まるで彼の体のすべての血が突然頭に昇ったかのように赤くなりました。それはいっぺんに起こりました。

すぐに母テレジアはそれに気づき、話す機会を逸することなく、すばやく彼に機知を利かせて言いました。

「どうしたのですか、神父様。それはとても良いことではありませんか。貴婦人はそんなことで恥ずかしいとは思いませんし、恋人も恥ずかしいとは思いませんよ」。

はっきりと、サラマンカのこの神学生の頭に、次のような、あるいはそれに似た考えが稲妻のように閃きました。一体、私はどこに巻き込まれていたのかと。

この修道女は、創立者としての才能をどれほど持っていたことか。おお、パウラールのカルトゥジオ会の隠れ場や暗がりよ。



…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その3

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボクスメールで履足カルメル会に入会。修練期の間、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新報の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとって大きな喜びとなった。



福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第1留 イエス 死刑の宣告を受ける

おお、神よ、こんな仕方で、あなたを観想しなければならないとは。この夜、何が起こったのでしょうか。あなたの民に何をなされたからといって、彼らはあなたをこのようにひどい目にあわせるのでしょうか。あなたは、ひどい仕打ちだけでなく、十字架に釘付けにされるまでの裏切りをお受けになるのです。その夜、羊飼いは打たれ、羊たちは散り散りになると、あなたは、確かに、あらかじめ告げておられました。今でも、私にはあなたの警告が聞こえます。「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。」

しかし、私はすでに眠りに落ちてしまいました。その瞬間、私にはあなたが見えなくなってしまったのです。おお、キリストよ、この受難が、あなたにとって義務だったのか、自由意志による選択だったのかと考えるとき、氷のような冷たさを感じます。その上、あなたは、「今夜、あなた方は皆わたしにつまずく」とおっしゃり、不幸にも、それは現実のこととなりました。私たちは、皆あなたにつまずいたのです。ご受難を観想する勇気さえ、私たちにはありませんでした。そして、私たちは、ご受難を引き起こしてしまったのです！「私の悲しみに匹敵する悲しみがあるかどうかを見てみなさい」とあなたが叫ばれたとき、私たちにはそれを見る力がないと思いました。あなたが衣をはがされ、打たれ、嘲られ、体中が傷だらけになるまで打ち碎かれるのを見たとき、私たちの魂は反逆を起こしたのです。

脱穀場で穀ざおが穀物を選り分けるように、罪は聖なる麦を選り分け、わらを割りました。あなたの御血は、滝のように流れ、今でも、御傷からあふれ続けています。まだ、その最後の一滴にまで到達してはいません。あなたの体は、すでに死んだように血色を失っています。しかし、あなたの御目のうちに、私は今でも愛の炎の輝きを認めます。その炎は、熱のように燃え、すべてが成し遂げられるまであなたを焼き尽くすのです。この夜、あなたのそのまざしは、ペトロを回心に導きました。私があるまざしのうちに無言の非難を感じるのは、私があるまざしを認めることを望まないからなのです……。あなたの無力さは、私をいらだたせます。あなたの受けた辱めを、私は恥じています。私は、あなたが王のように、勝利の輝きのうちにカルワリオに十字架をお立てになるのを見たいと望んでいるのに、あなたは、彼らがあなたをもっともひどい犯罪者のように扱うことをお望みになりました。

おお、神よ、私をこのつまずきから解放してください。私は知っています。あなたの答えは、「目を覚まして祈っていなさい」であることを。二人の処刑人が、あなたを十字架に磔(はりつけ)にするために、荒々しい無情な仕方でああなたを引きずっていき、私には、「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい」というおことばが再び聞こえます。神よ、私は祈ります。私は、あなたのご受難を見ることを望みます。あなたの辱めの深みをみつめながら、あなたの愛の深みを学ぶことを望みます。

* * * * *

この記事は、蹠足カルメル在俗者会員ベニ---ヒッキー氏が編集された *Drink of the Stream: Prayers of Carmelites* (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは、君に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(蹠足カルメル会歌・編)

以前（240号）にも少し触れたことですが、聖書の冒頭の天地創造が私は大好きです。

地は形がなく渾沌であって、闇が深淵の面を覆い、
神の霊が水の面を動いていた。

先ず、出だしのこの光景自体が味わうほどに何故かどうしようもなく心を奪うのです。内なる深部の底の底を揺り動かす何ものかを満ちていて、或る不安を呼び起こすのですが、しかしそれは何処かを志す幕開けの予感を備えていると感じます。自分自身の深い深い在り方を、私はここに知るのかもしれませんが。

神さまは、この渾沌を愛と叡智をもって分別されます。

光と闇を分けて昼、夜と呼び、大空、地、海、星、太陽、月・・・をあらしめ、季節のしるし、日や年のしるしが成り立ち、たくさんの生き物が群れ・・・遂には人間です。神さまはご自分が創られたものをご覧になってそれ等ははなはだよかったとお思いになり、そして全てをよしとされたのです。

ここへくると私はいつもいつもよろこびに満たされます。大いなる抱擁の内に被造物がものみな等しく存在することのよろこびです。

天と地にあるすべては、神さまが渾沌を分けることによって明らかとなり、精気みなぎる存在となったのです。偉大な秩序の完成です。

さて、他方にと云っていいのでしょうか。

中国の有名な寓話に「渾沌」が分別されることで死んでしまうという話があることを知りました。

こんなお話です。

南と北と中央に三人の帝がいて、中央の帝の名前が「渾沌」といいます。この渾沌さんは大変親切な人で、南と北の二人の帝はいつも彼から手厚いもてなしを受けているので、お礼をしたいと思って相談します。人間には誰にでも目、耳、鼻、口、と七つの穴があって、その穴で見て、聞いて、食べて、息をして生きている。ところが渾沌にはこの穴がないので、是非ともこの七つの穴をあけてあげようということになりました。そうして一日にひとつずつ穴をあけていきました。ところが七日たった時に渾沌さんは死んでしまいました。

一見天地創造とは反対のようなこの話にも、私はとても心惹かれて大きく含点して好きになりました。

遠い昔の若い日に、神父さまからお教えをいただきました。

「魂の奥底にゆっくりと展開していく力強い生命の営みを、無理に頭や概念で窒息させることのないように。すべてを沈黙させ静かさを養うように。神の現存と愛を信じて委ね尽くすように。始まったものは必ず完成されます。」

人として終生逃れることのできない深い罪の悲しみを、いよいよ身に知りながら、「望み得ないのになおも望みつつ信じる」世界を与えられて、狂おしく慕うお方の真ん中へと引き寄せられていったと、今、思っています。

また、いつぞやテレビで見たことですが、将棋の羽生善治氏の扇子に「渾沌」の二文字が墨でたっぷりと黒々と書かれていて、大変美しかったです。

対戦中に渾沌の中から突如立ち現われてくる行く手があるのだという羽生氏のお話には、心からの共感を覚えました。これに類したことは、詩人や作曲家、彫刻家等などが、創造の極みとして数多話されるのをききます。

おこがましき甚だしく噴飯ものを承知で付け加えれば、私も稚拙この上ないものでありながら、意識と無意識のあわい、睡眠と覚醒のあわいから立ち現われてくるものに導かれたり、時にはそれを捉えようとして枕元に紙と鉛筆を置くことがあります。

人は、明白なすじみちを自ら築き整えていく大きな力を与えられています。また一方では、意識の届かない広大な領域を身の内に抱え持っていることも事実です。このように自分でも全部を計ること不可能な自分の姿に、私は却って深々とした安心感を覚えるのです。

渾沌から立ち現われてくるものは、さかしらの人為を拒む光の矢となって鋭い覚醒を放ちます。

激しく静謐な苦しみの中で注意を凝らして待つ者は、不意の無償の恵みを受けて畏れおののくのです。

今、さまざまに思いめぐらしつつ、聖書冒頭の天地創造に再び想いを馳せるとき、ふっと、ヨハネによる福音の冒頭が重なり合って私の全身を覆うかのようでした。

鬼は外 福は内

お告げのフランススコ姉妹会 Sr. 熊田照子

節分とは、季節の変わり目、特に立春の前日をさしていわれたことでした。昔はこの日、
鯛いわしの頭を 柊ひいらぎの小枝に刺して戸口にさし、炒り豆をまいて悪疫退治、招福の行事を行う習慣がありました。あるいは狂言にもあるように節分の夜、鬼おにに口説かれた女が逆に鬼をだまして、隠れ蓑みものや打出づちの小槌などをうばい、そのあげく「鬼は外」と豆をまいて追い出してしまうという昔話むかしに因み、それが現代の今に至るまで、この習慣を持続しているところがあるということです。では私たちカトリックではどうなのでしょう？ 福にあたるのが「聖霊の働き」、鬼にあたるのが いわゆる「悪」とか「悪霊」の働き というように登場しますが、それは新・旧の聖書を開くと、多くの箇所はこの両者が平行して登場しているのです。その両者がもつれ合って現代にも及んでいるのです。この二者対立は、人間世界が続く限り途切れることなく続くことですし、何よりも自分自身の中で行われているものなのです。

一例をあげれば、ガラスの悪魔つきです。
悪魔につかれた町の男が、衣服も着ないで、
また家にも住めないで徘徊しているとき、イ
エスに出合った途端、「出ていけ」と云われて悪
魔は出て行った という話です。(ルカ8・26~39)

一見そんなことが起こるかと思いがちですが、
外見的事柄は多分起らないとしても、内面的
な動きとしては起こり得る人間の心中です。
日本の「ことわざ」にも同様のことがあるのが、
私たちお馴染みの「鬼は外、福は内」の節分の「豆ま
き」行事がそれだ と思うのです。



鬼
外



福
内



いのちの言葉 2月

神の霊によって導かれる者は皆、
神の子なのです。

(ローマ8・14)

この言葉は、キリスト者として生きることの素晴らしさ、新しさ、自由、すなわち、洗礼とイエスへの信仰によって私たちに与えられる実りをたたえて、聖パウロが語っている箇所の中心です。私たちは洗礼と信仰を通して、イエスに深く結ばれ、イエスを通して、三位一体のいのちにあずかります。私たちは、キリストと一体になることにより、聖霊を受け、聖霊のすべての実りをいただきますが、その第一の実りは、何よりも私たちが神の子となることです。「私たちは神の子と“された”」(*1)と聖パウロが語っているように、神の御ひとり子と比べると、確かに私たちは「養子」のような存在です。

しかし、御父と私たちとの交わりは、養子という法律上の関係に終わるものではなく、私たちの存在そのものにかかわることです。私たちは新たないのちを受けて、自分のすべてが変えられました。私たちの生活全体が、一つの新しい基準、新たな霊により、導かれるようになったからです。その霊は、「神の霊」に他なりません。

このように、洗礼の恵みによってもたらされた「死と復活の奇跡」を、私たちもパウロと共に、終わりなくたたえることができるでしょう。

**神の霊によって導かれる者は皆、
神の子なのです。**

今月のみ言葉は、キリスト者としての私たちの生活と関係があります。聖パウロの言葉を借りれば、聖霊は、私たちの生活に、「肉と霊の戦い」をもたらされました。ここで言う「肉」とは、体と魂で成っている「人間」のことです。人間が本来備えてい

る弱さやエゴは、いつも「愛の掟」と戦い、「私たちの心に注がれた神の愛そのもの」(*2)と戦っている状態にあります。

聖霊に導かれて生きる人は、日々「信仰の戦いを戦い抜く」(*3)よう招かれています。悪に対するすべての傾きに打ち勝ち、洗礼の時に宣言した信仰に従って生きるためです。

しかし、そのためには、どうすればいいのでしょうか。

聖霊に働いていただくためには、私たちの側の協力が必要です。聖パウロが今月のみ言葉を記しながら、何よりも念頭に置いていたのは「キリスト者としての務め」すなわち「自分自身を捨てること、さまざまな形で表に出てくる自分のエゴと戦うこと」でした。

しかし、このように自分自身に死ぬことによって、本当のいのちが生まれます。自分を捨てる時、自分のエゴに対して「いいえ」と断ち切る時、そこからは、泉のように、新しい光、平和、喜び、愛、内面の自由が生み出されるのです。こうして私たちは聖霊に向かって、心の扉を開くこととなります。

私たちが、心の中の聖霊にもっと自由に働いていただくなら、聖霊は、ご自分の賜物をより豊かに私たちに与え、人生の歩みの中で、私たちを導いてくださるでしょう。

**神の霊によって導かれる者は皆、
神の子なのです。**

では、今月のみ言葉をどのように生きることができるのでしょうか。

何よりもまず、私たちの中に聖霊がおられることを、もっと意識しましょう。このような計り知れない宝物をいただいている

にもかかわらず、私たちはその価値をよく理解していないからです。素晴らしい富を持っているのに、使わずに放ってあるのです。

聖霊の声を聞き取り、それに従って生きるため、私たちは、神様の御心に反するすべてのことを「いいえ」と断ち切る必要があります。誘惑が来るなら、そのささやきに耳を傾けず、受けつけないことです。一方、神様から何かの役割を任せられる時には、「はい」と答え、出会う試練や困難にも「はい」と言って、受け入れましょう。

私たちがこのように、真のキリスト者として生きるなら、私たちの生活は聖霊に導かれたもの、深い意味を持ち、力強く、光にあふれるものとなるでしょう。

こうして、私たちは肉親の親を持つだけでなく、神様を父としていただき、その子供として生きていることを、周りの人たちも感じるようになるでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2000年6月に発表されたものです

- * 1 ローマ8・15
ガラテヤ4・5参照
- * 2 ローマ5・5参照
- * 3 テモテー6・12参照

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は連絡先までよろしくお願ひします。

先月のいのちの言葉の体験談

「実際、一致を妨げる最も大きな要因は、私たちの個人主義です。それは自分の考えや物の見方、やり方に対する執着です」といのちの言葉にありました。

私は学校に勤務しています。もうすぐ発表会があるので生徒達、同僚の先生方とその準備をしています。ある日、一人の先生が、私に大道具の一つを作るのをお願いしてきました。私は心良く引き受けました。彼女のアイディアを聞き、自分の中ですぐ考えがまとまり、早速作り始めました。すると、もう一人の先生が、ここはこうした方がいいと意見を出してきました。私はもう自分の中でやってみたい方法があったので、彼女の意見を聞くのが面倒のように思えましたが、一番大切なのは、一致を保つことだと思い、自分のやり方を脇に置いて、彼女の意見に良く耳を傾けました。仕事の手を止め、相手の意見を受け入れることで時間がかかるように思えましたが、2人で協力して取り組むことで、思ったより、早く仕事が進み、想像以上に良く出来ました。私に仕事をお願いした先生も大変喜んでくれ、私も自分のやり方にこだわらず、一致を保ったことを嬉しく思いました。

●お知らせ

関東:

「いのちの言葉」の集い

2月13日(日)14:00(13:30 受付)
藤沢市労働会館

キアラ・ルービック追悼記念ミサ

3月21日(月・祝)14:00~
イグナチオ教会(四ツ谷)・
マリア聖堂(2F)

連絡先

フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [フォコラーレ](#) で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

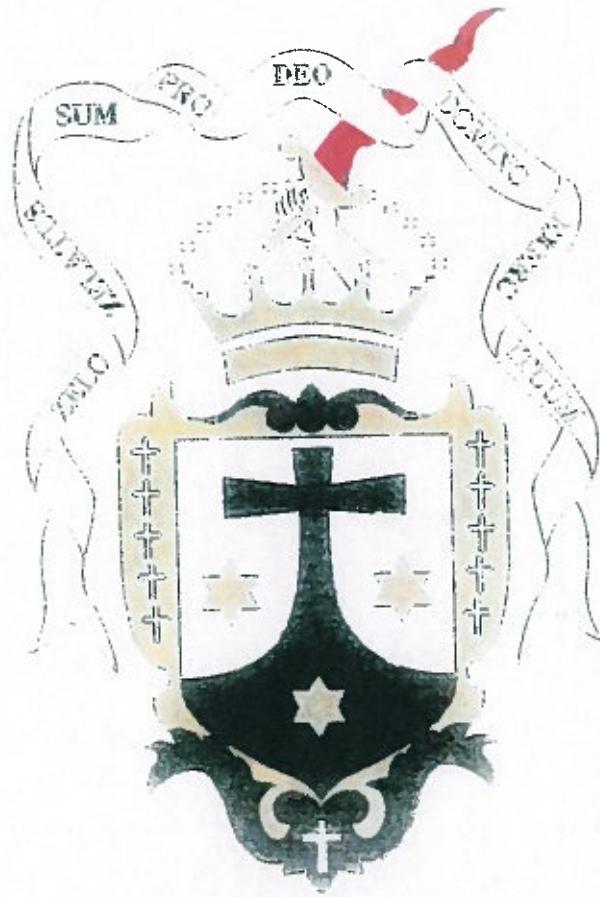
神のお告げ 3月25日(金)



受胎告知
Fra ANGELICO 1430s

「おめでとう、恵まれた方。
主があなたと共におられる。」

カルメル会の企画案内



2011年ワールド・ユース・デーと アヴィラのカルメル・ユース

このたび、2011年8月16日～21日にかけて、ワールド・ユース・デー本大会がスペインのマドリッドで行われ、それに合わせてカルメル修道会もカルメル・ユースがアヴィラで8月16日に行われます。

つきましては、アヴィラのカルメル会国際センターに宿泊しながら、ワールド・ユース・デーとカルメル・ユースに参加する企画を立てましたので、その趣意をご案内致します。

宿泊場所: スペインのアヴィラ カルメル会国際センター(通称CITES)

日程: 2011年8月14日(日)～8月24日(水)

目的: ワールド・ユース・デー参加(8月17日～21日)
カルメル・ユース参加(8月16日)・スペインのカルメル会修道院訪問(8月22日～23日)

随行者: 松田浩一神父(カルメル会司祭)と他一名のカルメル会士

参加対象者: カルメル会に興味を持つ20歳～40歳(健康な男女)

参加費用: 約25万円(宿泊費・交通費・大会参加費含む)。
尚、航空券等の都合上、申込み期日より若干の参加費用の変動がある見込みですので、ご了承ください。
(なお、全費用は30万円のところ5万円をカルメル会から補助します)

参加人数: 10名まで

申込期間: 3月19日(土)ごろまで。

以上、申し込まれる方は、直接 松田神父まで、下記の必要事項を記入の上、お渡しください。

① 氏名 ② 年齢 ③ 郵便番号 ④ 住所 ⑤ 電話番号(携帯) ⑥ E-mailアドレス(持っている人は) ⑦ 所属教会

尚、参加申込みされてから、航空券の費用の節約上、3月22日までに参加費用を払い込んでいただけます。
そのほかの詳しいプログラムは、順次確定していく中で、お知らせいたします。

おオアシオンとして、バレンシアに於きますカルメル会修道院の訪問予定です。費用お除必要となります。8月23日(火)～25日(木)の期間です。26日(金)に帰国予定です。共に行動される方は、合わせてご連絡ください。

《申込み先》〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山39-12 男子蹴足カルメル修道会宇治修道院
TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457 E-mail teresiauj@mountainocune.jp
WYD(World Youth) & EGY(Encounter of Carmel Youth)事務局 担当 松田浩一神父

主催: 男子カルメル修道会



カルメル会四旬節講話シリーズ

●テーマ：混沌の時代に生きる道を探して

●日 時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料(講話後、主日のミサ)

3月13日(日) 中川博道(カルメル修道会司祭)

「荒れ野を行く道 一十戒一」

3月20日(日) 川村信三(イエズス会司祭)

「教会史、民衆・信徒の立場から見た混沌の克服」

3月27日(日) 釘宮礼子(お告げのフランシスコ姉妹会)

「児童養護施設の現場から」

4月 3日(日) 松田浩一(カルメル修道会司祭)

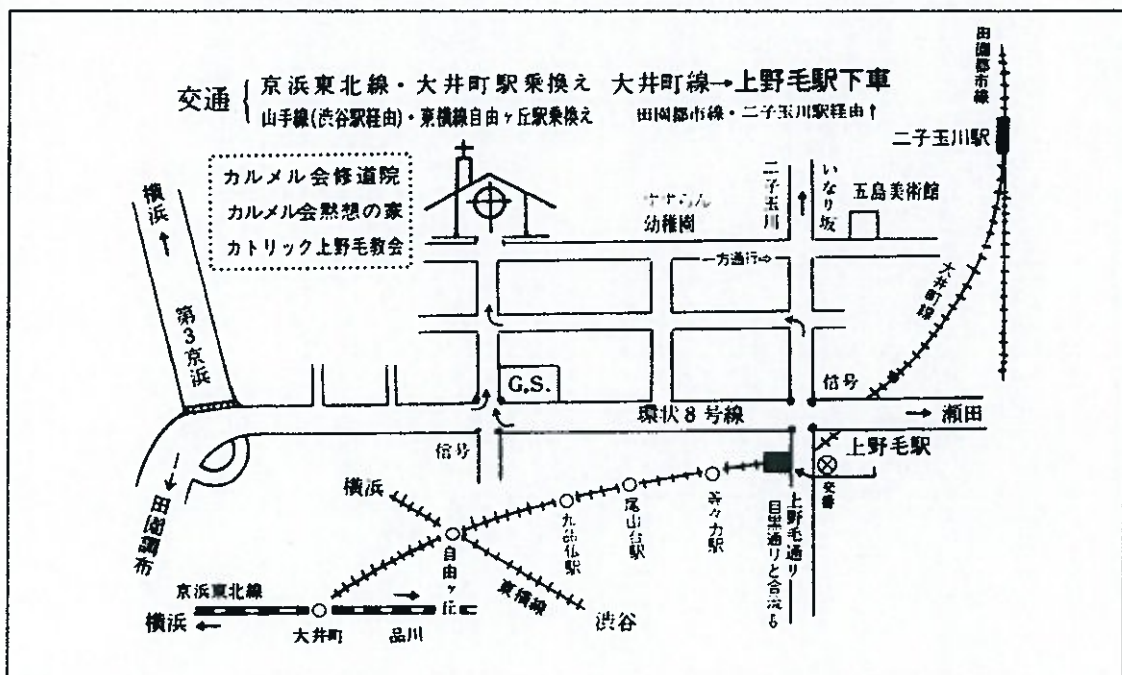
「神のいつくしみの中に生きるイエスの聖テレジア」

4月10日(日) 九里 彰(カルメル修道会司祭)

「暗夜の中を歩む 一十字架の聖ヨハネと共に一」

●場 所：カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会 (TEL03-3704-2171)



上野毛靈性センター ～ '12年3月
黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

4月15日～16日

6月17日～18日

9月 9日～10日

11月11日～12日

2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

7月31日(日)夕食～8月 9日(火)朝 中川博道神父

※ 8月11日(木)夕食～8月20日(土)朝 カルメル会士

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ《いのち》

4月28日 「いのちの充満 ―復活祭の喜び―」 今泉 健神父

6月16日 「いのちの音楽」 福田正範神父

9月15日 「ほまれある長寿 ―知恵の書4章8～9節について―」 ベルナルド神父

※ 11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅助祭

2012年

1月26日 「永遠のいのち ―壺から生まれた者は壺である―」 中川博道神父

4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

5月20日 「ご復活のラウレンシオ」 中川博道神父

7月 8日 「神の預言者聖エリヤ」 ベルナルド神父

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅助祭

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

- ※ 4月29日(金)15時～ 5月 1日(日)15時
7月16日(土)16時～ 7月18日(月)16時
11月25日(金)16時～11月27日(日)16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅助祭、修練者

10月8日(土)16時～10日(月)16時

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2011年 4月21日(木)～24日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ:「私は神を見たい」

5月27日(金)20時～29日(日)16時 「聖霊に導かれて」

27日は夕食を済ませてご参加ください。

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導:古川利雅助祭

注) ※の部分には前月号に対して、日付、時間、担当等の変更がございます。ご注意下さい。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス <10:30~12:00> 夜のクラス <19:30~21:00> いずれも金曜日



	月日	テーマ	聖書箇所
18	3月11日	「主の祈り」 主と共に生きる道	マタイ6章5節~15節
19	3月25日	「キリスト者の基盤」	使徒言行録2章42節
20	4月15日	「秘跡」 生きるキリストに伴われて歩む	

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして辿ります

2011年3月15日 (火)

3月18日 (金)

《時間》：(朝)火曜日 10:30~12:00 (夜) 金曜日 19:15~20:45

《担当》：中川博道神父 (カルメル修道会)

《場所》：カトリック上野毛教会 信徒会館ホールに於いて

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

カルメル青年黙想会

「神との親しさ」



- 日時： 4月29日(日)15時～5月1日(火)15時
場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)
対象： 青年男女(35歳まで)
定員： 20名
費用： 一般 10,000円 学生 7,000円
締切： 4月22日(金)〈必着〉
指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話 03(5706)7355
FAX 03(3704)1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

聖霊に導かれる日々の生活のために

2011年5月27日（金）20時～29日（日）16時

現代社会の狂騒の中でも、祈りたい、神に出会いたいと望む方々へ。
さらに深く神と出会うために

しばらく沈黙のひと時を過ごしてみませんか。

神の霊によって導かれる者はみな
神の子です。

あなたがたは
人を奴隷として 再び恐れに陥れる霊ではなく
神の子とする霊を受けたのです。
—マ8・14・15—

聖霊よ わたしが必要とし、わたしが望み、
あなたのみ業を実現するために
あなたが必要としている
あなたとの親しい絆を
わたしのうちに造ってください。
「神と親しく生きるいのりの道」より



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、
『神と親しく生きる いのりの道』 マリー・エウジェンヌ ocd 著、聖母文庫
(黙想の家で購入できます)
筆記用具、バジヤマ
- 参加費： ￥12,000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- 申し込み方法 上野毛黙想の家係りまで

2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	3月 5日(土)～6日(日) 永遠の命 5月21日(土)～22日(日) 希望 7月 2日(土)～3日(日) 今日を生きる 9月 3日(土)～4日(日) 人を赦すこと 11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王	九里彰神父 新井延和神父 新井延和神父 九里彰神父 新井延和神父
-----------------------	--	--

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)	2月26日(土) 4月30日(土) 6月11日(土) 10月 8日(土) 12月10日(土)	新井延和神父 渡辺幹夫神父 松田浩一神父 九里彰神父 新井延和神父
----------------------	--	---

・ 水曜の黙想

(午前10時～午後4時)	3月 30日(水) 悔い改めにふさわしい実とは 4月 13日(水) 復活の希望キリスト 5月 11日(水) 聖霊の賜物 6月 22日(水) 三位一体 7月13日(水) 幼子の心 9月 14日(水) 私たちの生活と十字架の十字架 10月12日(水) ロザリオの祈り 11月 2日(水) 死とは何か 12月14日(水) 愛の生ける炎	九里彰神父 松田浩一神父 松田浩一神父 新井延和神父 九里彰神父 松田浩一神父 松田浩一神父 新井延和神父 九里彰神父
--------------	--	---

・ 四旬節の黙想

(午後5時～午後4時)	3月19日(土)～3月20日(日)	渡辺幹夫神父
-------------	-------------------	--------

・ 待降節の黙想

(午後5時～午後4時)	12月 3日(土)～12月 4日(日)	松田浩一神父
-------------	---------------------	--------

・ 聖テレーズの黙想

(午後5時～午後4時)	9月30日(金)～10月 1日(土)	伊従信子師
-------------	--------------------	-------

【一般のための黙想】

(午後5時～午前9時)	5月 3日(火)～5月 5日(木)	新井延和神父
-------------	-------------------	--------

【青年のためのキリスト教霊性

対象：40歳以下の青年男女	5月 7日(土)～5月 8日(日) 11月 5日(土)～11月 6日(日)	松田浩一神父 松田浩一神父
---------------	--	------------------

(午後5時～午後4時)

奉獻生活者の黙想

(午後5時～午前9時)	8月 3日(水)～8月11日(木) 8月18日(木)～8月26日(金) 12月27日(火)～1月 4日(水)	松田浩一神父 九里彰神父 新井延和神父
-------------	--	---------------------------

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお問い合わせいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

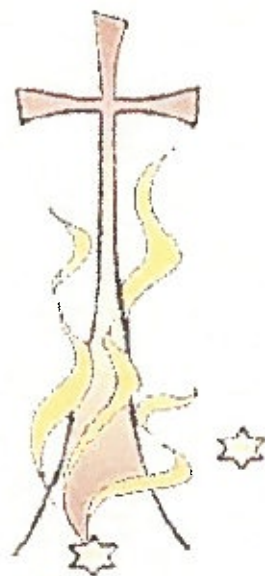
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちにされるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土) |
| ② | | 2月18日(金)～19日(土) |
| ③ | | 3月25日(金)～26日(土) |
| ④ | | 4月15日(金)～16日(土) |
| ⑤ | | 5月13日(金)～14日(土) |
| ⑥ | | 6月17日(金)～18日(土) |
| ⑦ | | 7月22日(金)～23日(土) |
| ⑧ | | 9月 9日(金)～10日(土) |
| ⑨ | | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ | | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ | | 12月16日(金)～17日(土) |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ⑬ | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ⑭ | | 3月16日(金)～17日(土) |



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—
 「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない」（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2パチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。
 2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	1月10日(月・祝)	混沌の中に差し込む光(創世記1章)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月26日(土)	主が示される地に向かって(創世記12章)	松田浩一神父 (宇治修道院)
第3回	3月12日(土)	絶望の中の光(イザヤ43章、65章)	高山貞美神父 (聖心布教会)
第4回	4月9日(土)	新しい派遣(列王記19章)	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月5日(木・祝)	新しい契約(エゼキエル36章)	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月25日(土)	神の国の芽生え(マルコ4章)	三上和久神父 (三馬修道院)
第7回	7月18日(月・祝)	わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章)	ボクダン神父 (南山教会)
第8回	9月17日(土)	キリストの新しい錠(ヨハネ13章)	Srバウリナ (宣教カルメル修道院)
第9回		新しい生活(改葬)、アヴィラの聖テレジア	
第10回	11月23日(水祝)	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (宇治修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
 - ～ 黙想・(赦しの秘跡または面接)
 - 12:15～ 昼食
 - ～ 黙想・(赦しの秘跡または面接)
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
 一泊静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林 厚・晃子
 TEL・FAX 052-701-3685

2011年度名古屋聖書深読会

第1回 5月28日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月29日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ¥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
カルメル会日比野修道院
FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115
小林 厚・晃子
TEL/FAX 052-701-3685

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

福者フランシスコ・パラウ神父OCD 生誕200周年記念年の荘厳ミサ開会式

2010年12月30日 スペイン・バルセロナ発：12月29日にバルセロナのカテドラルにおいて福者フランシスコ・パラウ・イ・ケール神父OCDの生誕200周年記念年の開会式が公式に荘厳ミサの中で執り行われた。彼は今から199年前にアイトナ（レリダ）で生まれた。当日、バルセロナの大司教ルイス・M・シスタック枢機卿は、ミサの中でカルメル宣教修道女会とカルメル・テレジア宣教修道女会が合同で準備した記念式典を司式した。そして、ヴァヤドリドとタラゴナの大司教達と、OCDのカタロニアとヴァレンシアの管区長であるアグスティ・ボレル神父とパスカル・ヒル神父が、他の約60名の司祭たちと共同司式を執り行った。

カルメル宣教修道女会の総長Sr.セシリア・アンドレスとカルメル・テレジア宣教修道女会の総長Sr.ルイサ・O・サンチェス、管区長、会長、管区顧問達が両宣教修道女会のメンバーと共に、この二つの会の創立者の記念すべき荘厳ミサの式典に参列した。シスタック枢機卿は、説教でこの祝いの年はカルメルファミリーの両修道女会とメンバー、そしてその事業にとって恵みの年であるとの認識のもとに開始されると明言した。さらに、彼は一人ひとりがパラウ神父の生涯、霊性、カリスマ、彼の著作の豊かな内容を学ぶ年となるよう奨励した。それは、私たちがパラウ神父の生涯と事業をより良く知ることによって、現代の西ヨーロッパ社会における宗教的無関心と物質文化に浸る人たちに、キリスト者としての生きた証となるためであると説いた。結びとして、シスタック枢機卿はこの記念の年に、皆に聖性への大きな望みを抱くよう勧め、それによって共同体としての一致を通して両修道女会の結びつきをさらに親密にし、カルメルのファミリーの絆を強めることができるよう祈願した。

最後の祝福の前に、アグスティ・ボレル神父はOCD総長サベリオ神父からのお祝いの手紙を披露した。その中で総長は、自らこの荘厳ミサと式典に祈りのうちに一致して共にいること、そして感謝の言葉を述べた。また、総長は両修道女会がこの記念の年の事業を協力し合って担うよう招き、今までに果たしてきた活動により積極的に取り組むよう激励した。さらに、福者パラウ神父がカルメル会士としてテレジア的な印をその事業において保持し、テレジアの息子の特別な証である深い観想のうちに使徒的活動に従事し生きたこと、そして福者パラウ神父はどのテレジア的カルメルの息子とも同じように、キリストを愛し、聖母マリアを愛し、教会を愛したことを讃えた。

聖ヨセフ 3月19日(土)



St Joseph with the infant Jesus
Guido RENI 1620s

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



● 目次 ●								
馬屋の霊性 (8)	聖母マリアへのお告げ 1	高橋重幸	2					
カルメル <small>の</small> 霊性 <small>の</small> 源流を探して (2)	——その「公開」に見る生活	中川博道	8					
三位一体のマリアの歌 (2)	私は愛に渴いている	ペトロ・アロイジオ	16					
「ここに隠れになったのですか」 (6)	——十字架の聖ヨハネに見る霊的旅路	九里 彰	22					
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (5)	変容までの長い道のり マリー・エウジェンヌ	編・訳 伊達信子	28					
死に臨む言葉	——エディット・シュタインの	須沢かおり	35					
アウシュヴィッツへの道ゆき (1)								
「小さい道」の巡礼者 (1)	テレーズの修練者——三位一体のマリー	中山眞里	43					
小さくされたマリア様	——マリアと私たち	谷目正子	50					
愛の断章 (18)		奥村一郎	57					

購読のご案内

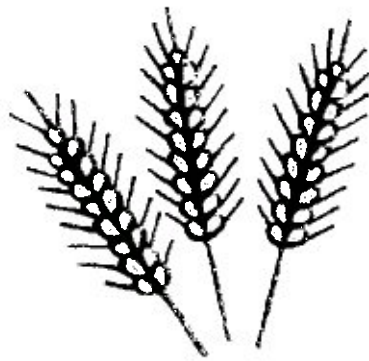
雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) できます。定価は、一冊460円です。

- 送付希望の方は、600円【内訳 400円(十送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300円】、送料分【700円】)として、3000円を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで)

TEL (03) 5706-8356)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センターの予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

K2 03/04(金)-03/10(木) 東京・小金井・聖霊会

M2 04/03(日)-04/09(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

★N1 04/30(土)-05/06(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

O1 05/19-05/23 沖縄・伊江島、沖縄県人向け内観(4泊5日)

K3 05/31(金)-06/06(木) 東京・小金井・聖霊会

★N2 06/24(金)-06/30(木) 滋賀・唐崎・ノートルダム

N韓 07/06-12 韓国グループ向け限定内観 滋賀・唐崎・ノートルダム

Y2 07/18(月)-07/24(日) 神戸・須磨・ヨハネ

S韓 08/13-19 韓国グループ向け限定内観 長野大鹿村・早々庵

S1 08/21(日)-08/27(土) 長野大鹿村・早々庵

M3 09/11(日)-09/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

N3 09/24(土)-09/30(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

K4 10/07(金)-10/13(木) 東京・小金井・聖霊会

★N4 10/20(木)-10/26(水) 滋賀・唐崎・ノートルダム

真命山 2011年 - 祈りの集いのご案内

真命山の霊性



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ



通年のテーマ：

典礼暦年間で教会とともに祈る

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

- 03月 10日 四旬節
- 04月 14日 過越の三日間
- 05月 12日 復活節
- 06月 09日 聖霊降臨の祭日
- 07月 14日 聖人の記念日 - 2
- 09月 08日 聖人の記念日 - 3
- 10月 13日 日曜日：主の日
- 11月 10日 待降節 - 1
- 12月 08日 待降節 - 2

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流
センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。
(要予約)

リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

1月8日、15日、22日、29日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kulturlauf 1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日～1月3日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

●坐禅接心

(上石神井)

2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分
5,900円

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kulturlauf 1階
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、
10月20日、12月29日、祝日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時

上智大学内SJハウス第5会議室

黙想、講話、ミサがあります。

1月15日

ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

Kulturlauf 1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。

(但し、祝日、8月10日は休。

8月24日は Kulturlauf 1階聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し祝日、2011年1月4日は休み。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kulturlauf 1階右小聖堂。

どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

3月12日(土)10時～13日(日)15時

上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と
集い、ミサ(14時～18時)、上智大学
内SJハウス第5会議室
1月22日(土)

●クリスマス会・ミサ



上述日程等、変更の可能性
があります。
詳細等は、
下記、リーゼン
フーバー神父様
のホームページ
でご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 01/07: 霊の動き－福音による生き方
- 01/14: 秘跡の恵み－毎日を養う信仰
- 01/21: 教会の構造・典礼・歴史－教会と共に歩む
- 01/28: 信徒・司祭・修道者－誰もが召されている
- 02/04: 神の言葉－神との日常的な対話と黙想の仕方
- 02/18: 結婚と独身－愛の道
- 02/25: 仕事という人間の課題－社会と教会に寄与して働く

- 03/04: 人間の苦悩－悪とは何のためか
- 03/11: 死－その実現と克服
- 03/18: 人生の完成－神の内に生きる
- 03/25: 聖母マリア－イエスと共に生きた方



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

聖霊

01/18: 三位一体の神－救いの構造から神内の存在へ

教会

- 02/01: 信仰者の共同体－教会の本質
- 02/15: 救いのしるしと実現－秘跡の意味
- 03/01: 憐れみと愛の祝い－罪のゆるしとミサ
- 03/15: 人間と世界の究極の未来－終末の約束
- 03/29: 信仰者の原型－聖書と教会の教えに見られるイエスの母

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

上述日程等、変更の可能性があります。
詳細等は、下記、リーゼンフーバー
神父様のホームページでご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

3月12日（土）
4月09日（土）

講話 伊従信子

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv.jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

神の恵みを生きる

聖母を母として生きる

最も大切なもの、その大切さを共有するとき、私たちはひとつになる。
死に至るまで、大切にされた聖母を、イエスは弟子に与え、弟子は母とした。

日時：3月5日（土）15:00～6日（日）15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
（JR京都駅から30分）

指導：山内 十束 神父（御受難会）

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：2月26日（土）までに

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地: 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通: JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程:

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 4月29日(金)～ 5月 7日(土)
- ③ 6月 23日(木)～ 7月 1日(金)
- ④ 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ⑤ 9月 23日(金)～ 10月 1日(土)
- ⑥ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ⑦ 11月14日(月)～ 11月22日(火)
- ⑧ 11年12月27日(火)～12年1月 4日(水) 予定

B. 祈りの体験:週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 了
- ② 3月11日(金)～ 3月13日(日)
- ③ 4月 8日(金)～ 4月10日(日)
- ④ 5月20日(金)～ 5月22日(日)
- ⑤ 7月 22日(金)～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 2日(金)～ 9月 4日(日)
- ⑦ 12月 2日(金)～ 12月4日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月27日(金)～6月4日(土) 裏辻 洋二 師(イエスス会)

◎ 対象: 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者: 菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他 若干名

◎ 申込み: 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他: 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

カルメル霊性センターニュース の読者の方へ

献金のお願い

この霊性センターニュースは、編集、印刷、製本、発送等、すべてカルメル会霊性センターで行なっております。今までは、無料で配布しておりましたが、紙面をより充実させるためにカラー印刷機を導入した関係で、

4月より

お持ち帰りになる方には

**一冊 100 円程度の献金をお願い
したいと思います。**

献金の箱がある場合は箱へ、ない場合はピンクの封筒に入れ、教会維持費のポストへお入れください。

郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。
切手では受け付けておりません。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

振込む場合は、以下の口座です。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース



編集後記

三月は、卒業、進学、入社等、だれにとっても人生の転機となる月である。日本のカルメル会では、前の年に入会した志願者の「着衣式」が行なわれることが多い。着衣とは、カルメル会の修道服を身にまとうことで、いよいよ修道生活が始まったということを実感する瞬間でもある。そこから一年間の厳しい？修練期が始まるわけだが、修道服を身にまとうことの意味は、きわめて大きい。

なぜなら、修道生活とは、この世の生き方を捨てて、キリストの後にひたすら従っていく生き方だからである。今まで着ていた私服を捨て、修道服を身にまとうことは、そのことを象徴しているのである。実際、若ければ若いほど、特に女性の場合は、おしゃれをしたい、着飾りたいという欲求は強いだろう。それを抑制し、一年中、同じ色の修道服を着る（夏服と冬服はある）ことは、それだけで、一般の人とは違った生き方を選び取ったことを証しているのである。

道元禅師は『袈裟功德』を書いた。たかが修道服、されど修道服である。

旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚持ってはならない。(ルカ9:3)

(P. 九里)



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本／発送は、毎月第四火曜日（原則）に行われています。どなたでも参加していただくことができます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「4月号」製本日

3月22日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171